

汚染物質部会小グループにおける検討について

1. 経緯

平成22年1月27日の第4回汚染物質部会において、ヒ素の評価の方向性は化学形態別に検討していくこととされた。まず、無機ヒ素の評価から始めることとされ、圓藤座長指名のメンバー（花岡専門委員、村田専門委員、山内専門委員、山中専門委員、吉永専門委員、鰐淵専門委員）からなる小グループにより、EFSAの評価結果（平成21年10月）で引用されている文献の精査やJECFAの動向等について検討を行うこととされた。

2. 検討内容

- ・ EFSA の評価に用いられた文献のレビュー
- ・ 平成 20 年度食品中に含まれるヒ素の食品影響評価に関する調査に用いられた文献のレビュー
- ・ 事務局で収集した最近のヒ素の疫学に関する知見のレビュー
- ・ 用量反応関係に用いることができる知見の選択及び用量反応関係の検討
- ・ ベンチマークドース（BMD）法の採用について
- ・ 評価書（案）の一部作成

3. 結果

収集した 149 報の知見を検討した結果、LOAEL 設定に妥当と考えられる知見を 27 報（皮膚病変 6 報、肺がん 5 報、膀胱がん 7 報、IQ 低下 2 報、生殖発生毒性 7 報、心血管疾患 1 報）、ベンチマークドース適用が可能と考えられる知見を 8 報（皮膚病変 4 報、肺がん 2 報、膀胱がん 1 報、心血管疾患 1 報）を選択し、それぞれの LOAEL を資料 2、BMCL を資料 4 の通り試算した。